

心の鍵

副校長 大竹 貴子

保健室前の花壇のチョウセンアザミが大輪の花をつけました。小さな子どもの顔くらいの大きさの青い花です。あざみというと、たくましく育つイメージがありますが、このチョウセンアザミは病気や虫のため、いくつかのつぼみは咲かずに枯れてしまいました。今、きれいに咲いている花は、毎日、様子を見て水をあげたり消毒をしたりするなどの世話をした花なのです。ご来校の際は、ぜひご覧ください。

先日、「プール開きの会」がありました。あざみ野第一小学校では、朝会等で並ぶとき、大きな声で「静かにしましょう」や「まっすぐに並びましょう」と呼びかけることはあまりしません。子どもたちは徐々に並び始めだんだん静かになっていきます。この日も、少し話し声が聞こえていましたが、会が始まると静かになってきました。今年、技術員が板を切って新しく作成した、ペンキできれいに塗装された70cmくらいの大きな鍵が、校長から代表児童に手渡されました。その後、体育担当からの話がありました。

「この鍵は、本当のプールの鍵ではありません。本当の鍵はこれです。目をつぶって聞いてください。」

と、鍵の束を振ると、小さな金属音が静まりかえった校庭に響き渡りました。子どもたちは物音一つたてずに耳を傾けていました。

「こちらの大きな鍵は、安全に水泳学習をしようと思うみなさんの心の鍵です。」

自分から話を聞こうと思った子どもたちの心に、その言葉がしっかりと届いたことでしょう。

朝会の時、「静かにまっすぐに並びなさい」と形を教えることはできますが、「聞く心」を育てることは、なかなかむずかしいものです。ただ、本校の子どもたちはしっかりと自分で判断し、行動できるようになってきていることを実感しました。

だんだんと夕涼み会が近付いてまいりました。今年は、児童実行委員を募集し、子どもたちの意見を採り入れて計画を立てています。「ゲームコーナーを増やしたい」「ごみをなくしたい」「フィナーレを盛り上げたい」「一言感想を集めて絵をつくりたい」いろいろなアイデアが出て、その準備も子どもたちがしています。子どもたちの願いをしっかりと聞き、実現させてあげたいと夕涼み実行委員会の皆さんが協力をしてくださいました。

活動時間は、中休みと昼休みです。始めのうち、PTAの役員の皆さんは本当に準備ができるか不安そうでしたが、実行委員が友達を毎日連れてきて、あっという間にゲームの準備をしてしまいました。フィナーレでダンスを踊る係も、委員の子どもたちが自分たちで友達に声をかけ、集めてきました。その意欲や活動ぶりに感心する毎日です。

あざみ野第一小は、チャイムが鳴りません。これも、時計を見て自分で判断して行動できるようになってほしいという願いからです。自分で判断して行動したとき、自分でやりたいと意欲をもって取り組むとき、子どもたちはすばらしい力を発揮します。これからも形からではなく心が育つように、判断できる場を、意欲をもつことができるような活動をたくさんつくっていきたいと思います。ご支援、ご協力をお願いいたします。